

校長室からつぶやき・・・ 『ツイート』新聞



宇美町立宇美南中学校

第9号

文責 校長 熊本 寿美
令和3年5月21日(金)

新学習指導要領実施に基づく授業づくり「学びをふり返り、学びをつなぐ。」

本年度から、平成29年度に告示された中学校学習指導要領の完全実施となります。「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。」(中学校学習指導要領解説平成29年度告示解説より) また、学習の評価観点もこれまでの4観点から、①知識・技能②思考・判断・表現③主体的に学習に取り組む態度の3観点となりました。

このことを受けて、本校でも、自ら学び、協働して課題解決に向かう生徒を育成する授業づくりに励んでいます。「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」、対話活動やふり返り、書くことの学習の積み上げや家庭学習を「南中学びスタイル」として、取組を強化していきます。また、学びをふり返り、学んだ知識や技能を生かし次の新たな課題の解決に向かうことや、各教科での学びをつないで学習内容の定着と深化を図る教科横断的な学びをすすめています。



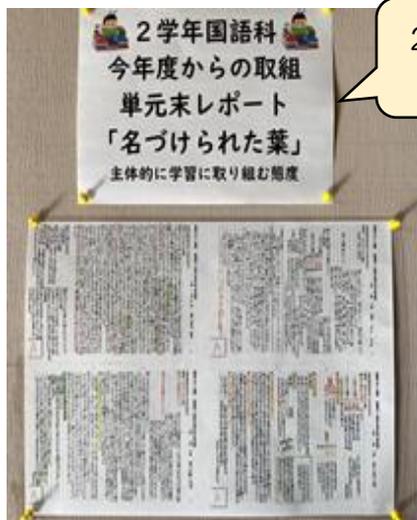
国語科では、地球儀を用いて、詩に出てくる国や島の位置を探して、確かめる活動を行っています。位置や距離感を視覚的につかみ、発見や驚きがあり、興味関心を高め、詩の解釈や読み取りを深めています。

朝のリレー
谷川俊太郎
カムチャツカの若者が
きりんの夢を見ているとき
メキシコの娘は
朝もやの中でバスを待っている
ニューヨークの少女が

1 学年国語科 詩「朝のリレー」(谷川俊太郎作)の学習において、学びをつなげる授業が行われています。



社会科では、時差を求める活動を通して、日本と世界の位置関係を学ぶ学習において、「朝のリレー」の詩を用いて詩に出てくる国の時差を求める活動を行っています。時差をつかむことで、詩の理解が深まるとともに、世界観への想像が広がっていきます。



2年生の国語科の授業では、単元の終わりに「単元末レポート」に取り組んでいます。

2 学年国語科では、単元のまとめに学びをふり返り、学びを日常や新たな課題解決につなげる視点でレポートを作成しています。新たな評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」の評価資料の一つにもなります。これまでの学びで得た情報を整理し、自分の考えを明確に示しながら書く活動がすすめられています。レポートの内容に、意欲的に課題と向き合っている主体的な学びの姿がうかがえます。



学習ファイル等を見直ししながら、黙々とレポートを書いています。

「鍛えて・ほめて・励まして」 南中生のよさや頑張りが輝く学校づくり